

公共建築の長寿命化を考える

～公共建築におけるハードとソフト～

講演会・見学会

平成26年11月17日(月)

国立京都国際会館

参加無料

定員250名



公共建築物は、街づくりや街並み形成を先導する役割とともに、その施設を利用される視点に立って、快適、効率、安全な施設であることが求められています。

国立京都国際会館は、長年にわたり蓄積してきました会議運営能力をフルに発揮し、国際会議場としての使命と役割を果たして参りました。

一方で会議場ユーザーの方々からは会館のスペース不足の解消に対しても強い要望が寄せられておりました。そのような状況下、今般ようやく新ホール建設への目途も立ちました。

今回、当館の自主企画事業の一環として、「国立京都国際会館」の建築とその使命「建築シリーズ2」として公共建築協会と協力し、講演会を開催させていただきます。公共建築の諸課題を多方面から考察し、重要な建築文化の継承について考える時と場をご来場の皆様方にご提供できればと考えております。

国立京都国際会館

高度経済成長期などに整備された公共建築は、老朽化が進んでいます。厳しい財政事情の中、建替等が困難になる中で、既存施設の有効利用が求められています。一方で環境負荷の低減や循環型社会形成の推進という時代の要請もあり、長寿命化を促進することが公共建築の課題となっています。

建築物の長寿命化は増築や改修を続ける単なる整備（ハード）だけでなく、保全、運用（ソフト）面での取組が重要となります。

今般、「公共建築の長寿命化を考える」と題した講演会と国立京都国際会館の施設見学会を国立京都国際会館のご協力のもと共同開催させていただきます。

ソフト、ハードの両面から公共建築について考え、来場される皆様方に公共建築に対する更なるご理解をいただければ幸いです。

公共建築協会

講演会 13:00～15:30 Room D (定員250名)

基調講演

「公共建築をいかに使い続けるか」
首都大学東京 名誉教授 深尾 精一氏



1971年 東京大学工学部建築学科卒業。1976年 東京大学大学院博士課程修了。同年4月 早川正夫建築設計事務所に入所。翌年より東京都立大工学部助教授。1995年より東京都立大学工学部教授、2005年 首都大学東京 都市環境学部教授。2013年より首都大学東京 名誉教授。一級建築士。工学博士。専門は建築構法、建築計画、建築設計。論文著作など多数。

講演 1

「国立京都国際会館の整備について」
近畿地方整備局 営繕部 技術・評価課長 山田 政和氏



1973年 建設省近畿地方建設局 入省。1976年より近畿地方建設局営繕部構造係に配属。1988年より同構造係長として営繕部設計の大型物件に数多く従事。1993年より設計官として国立京都国際会館の改修設計等を担当。不同沈下対策等の地下ダムやジャッキダウン工法の提案などハード整備に尽力。2012年より 近畿地方整備局営繕部 技術・評価課長。一級建築士。

講演 2

「会議場維持運営の課題」
国立京都国際会館 館長 木下 博夫氏



1967年建設省入省。1996年より建設省都市局長、同建設経済局長、国土庁官房長、国土事務次官を歴任。2001年より阪神高速道路公団副理事長、2004年同理事長を経て2005年より阪神高速道路株式会社 代表取締役社長に就任。2010年に退任し2012年より 公益財団法人国立京都国際会館 館長（常任理事）。

見学会 15:45～16:45 (定員250名)

国立京都国際会館の主会場、庭園等をご覧ください。（雨天等の場合、内容を変更させていただきます。あらかじめご了承ください。）



参加申込書

ご希望欄□にチェックをお願い致します。（複数可）

講演会 13:00～15:30 見学会 15:45～16:45

（ふりがな）
氏 名

所属

TEL () - FAX () -

住所 〒

●ご記入いただきました個人情報は厳重に管理し、当イベント以外の目的には使用いたしません。

お問い合わせ先

一般社団法人公共建築協会近畿地区事務局

〒540-0028 大阪市中央区常盤町 1-2-17 大阪フコク生命ビル 6F

TEL: 06-6943-7571 FAX: 06-6943-7576 mail: kouen@pba.or.jp HP: http://www.pbaweb.jp/

※参加希望の方は、参加申込書に必要事項をご記入の上、**11月16日(日)まで**にFAX【06-6943-7576】またはmail【kouen@pba.or.jp】でお申し込みください。参加者には**参加票**をFAXまたはメールにて送信させていただきます。万が一届かない場合には、お電話にてお問い合わせください。尚、当日は必ず**参加票**をお持ち下さい。定員は250名ですが、余裕があれば当日でも参加可能ですので、合わせてお電話にてお問い合わせ下さい。**参加は無料**です。

地下鉄烏丸線「国際会館」駅下車、4-2 出口 徒歩 5 分



～公共建築の長寿命化を考える～

平成26年度「公共建築の日」及び「公共建築月間」イベント報告



「公共建築の日(11月11日)」及び「公共建築月間(11月)」に合わせて、(一社)公共建築協会近畿地区事務局及び国立京都国際会館の共同主催、近畿地方協力支援会議(近畿地整、近畿管内の府県政令市で構成)の後援で、今年の11月17日にイベントを実施しました。

今年のテーマは、笹子トンネルの崩落事故を契機とした、国をあげてのインフラの適切な管理が叫ばれる中、国土交通省のインフラ長寿命化行動計画が今年5月に策定されたこともあり、「公共建築の長寿命化」を取り上げ、国立京都国際会館において、講演会と見学会を開催しました。

●講演会及び見学会 日時:平成26年11月17日(月)13:00～16:45

場所:国立京都国際会館

○基調講演 ～公共建築をいかに使い続けるか～

講師:首都大学東京 名誉教授 深尾精一氏

○講演1 ～国立京都国際会館の整備について～

講師:近畿地方整備局営繕部 技術・評価課長

山田政和氏

○講演2 ～会議場維持運営の課題～

講師:国立京都国際会館 館長 木下博夫氏

●参加者:312人

官公庁:143人 民間企業等:111人 一般:27人 学生:31人



～国立京都国際会館について～

1966(昭和41)年5月21日に開館した建物で、建築家大谷幸夫氏の設計によるものです。わが国では初めてとなる公開設計競技方式(コンペ方式)が採用され、195の応募作品の中から選ばれました。1960年代を代表する建築で50年余を経て、今なお成長し続けている代表的な長寿命建築の一つです。地球温暖化問題の京都議定書採択した地球温暖化防止京都会議(COP3)が開催されるなど国際的にも著名な建築物となっています。



深尾精一氏



山田政和氏

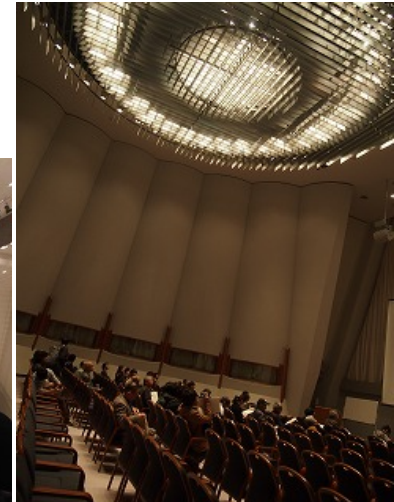


木下博夫氏

今年度は、予定を大きく上回る312名という参加者を得て、急遽、会場変更を行うなど、うれしい悲鳴のイベントとなりました。

施設見学は、国立京都国際会館の主な会議室や日本庭園等をご案内し、見学者は大勢でしたが、皆様のご協力で無事終わることが出来ました。

施設見学の状況



講演の内容

深尾名誉教授からは、美術館、博物館、病院、学校など様々な用途の公共建築があるが建築の種類、用途によって長寿命化すべきものとそうでないものがある。今は壊さない時代から壊せない時代に入っており、いかにそれらのストックを活用していくかが課題で、用途も変えるような大胆なリノベーション等により使い続けることが出来るのでは、との考え方を示されました。

山田技術・評価課長からは、ハード整備の観点から阪神淡路大震災で国際会館が被災した際、不同沈下の進行を止めるために行った地下水の地下ダム化や建物全体のバランスを考慮したジャッキダウン工法による整備の苦労話の紹介があり、熱意をもって整備にあたることの重要性を訴えました。

また木下館長からは、維持運営の課題として、予算確保への理解やニーズに合わせた施設の増設、施設の有効利用等国際会館の目指す方向について語っていただきました。

参加者の声

アンケートでは、95%を超える方々に「良く理解できた」等の好評をいただきました。外に、回答として、

「このような講演会をもっと増やして欲しい」
「建物と会議の内容が一致しておりほんとうに良い会議であった」
「国際会議場を体験出来て感動」
「街に調和した建物の難しさとおもしろさが何となく理解出来ました」
「見本となる建築でためになった」
「今後も有名建築の見学会をして欲しい」

など、多くの参加者から意見等を頂くことが出来ました。

ご協力ありがとうございました。